

## 赤野井湾における真珠母貝生産の拠点化に向けた実証試験

草野 充・井戸本純一

### 1. 目的

滋賀県内の淡水真珠養殖業を振興する上では、真珠母貝の生産量を増やすことが必要であるとともに、環境変化等に対する危機管理上、複数の水域において母貝の生産拠点を設けることが重要である。そこで、近年漁場環境が改善している赤野井湾において、事業規模での実証試験を行い、真珠母貝生産拠点としての機能評価を行った。

### 2. 方法

令和元年の10月に赤野井湾内の2か所の漁場(図1)に1,000個の稚貝を垂下し、それぞれ100個体を無作為に抽出して代表値とした。

令和2年度の成長・生残率調査は、11月18日および令和3年3月25日に行った。取り上げた容器内の母貝は、洗浄した後に工作板に広げて写真撮影し、後日画像データをもとに個体数と殻長の測定を行って平均殻長と生残率を求めた。

### 3. 結果

母貝の成長は両漁場ともに良好な成長を示した。垂下から17か月後の令和3年3月における平均殻長は8号で97mm、10号で92mmとなった(図2、4)。また、収容後の生残率は、令和3年3月時点で8号では97%、10号では83%であった(図3)。両漁場における母貝の成長は、別の調査で行っている他漁場と比較しても比較的良好であり、真珠母貝生産の新たな拠点として有望であると思われた。

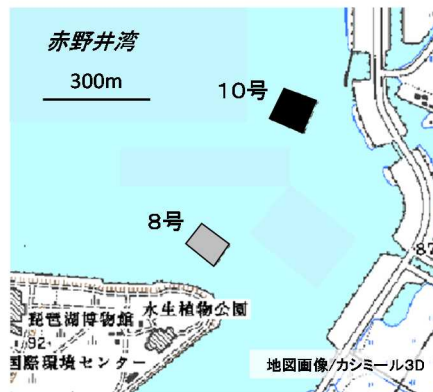


図1 実証試験を行った漁場(8号、10号)

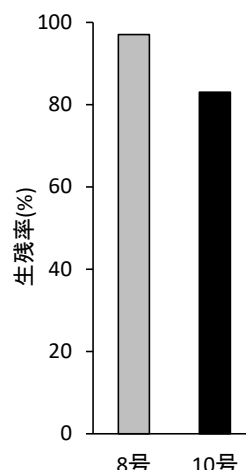
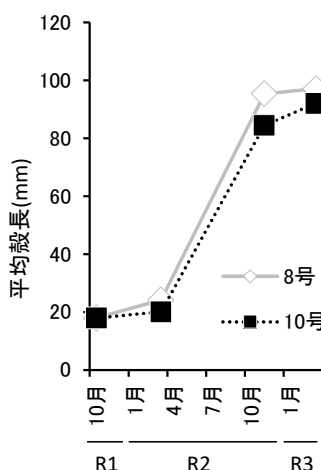


図2 両漁場における平均殻長の推移

図3 両漁場における生残率(令和3年3月)

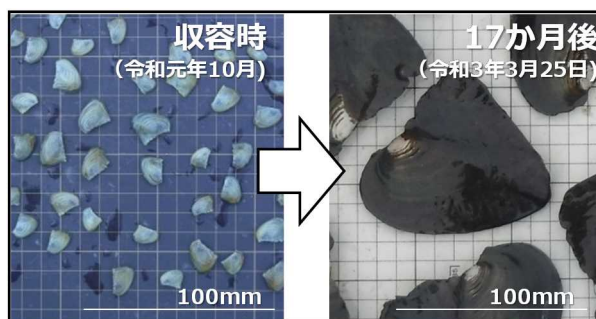


図4 収容時および17か月後の母貝(8号漁場)